

ウィズコロナとアフターコロナ時代の

新しい

県立図書館

現在、静岡県に限らず世界中でコロナウイルスが流行、して、それに対応した図書館を建設をしなければならぬ。それに伴い、テーマにもある通りコロナウイルスの対策とその後100年以上使い続ける図書館のアイデアを考えました。その上で、図書館の問題点は3つあると思いました。1つ目は、対面になる場所が多いこと。2つ目は、換気がしにくいこと。3つ目は、日本人の本に対する興味が薄いこと。

解決策

1. 図書館を円柱状に設計する

・図書館を円柱状にすることによって、壁に本棚を寄せ、カウンター席を設置し対面になる場所をできる限り少なくする。本を取る時は壁を向く事になり、カウンター席におと対面になる事はほぼなくなると思います。

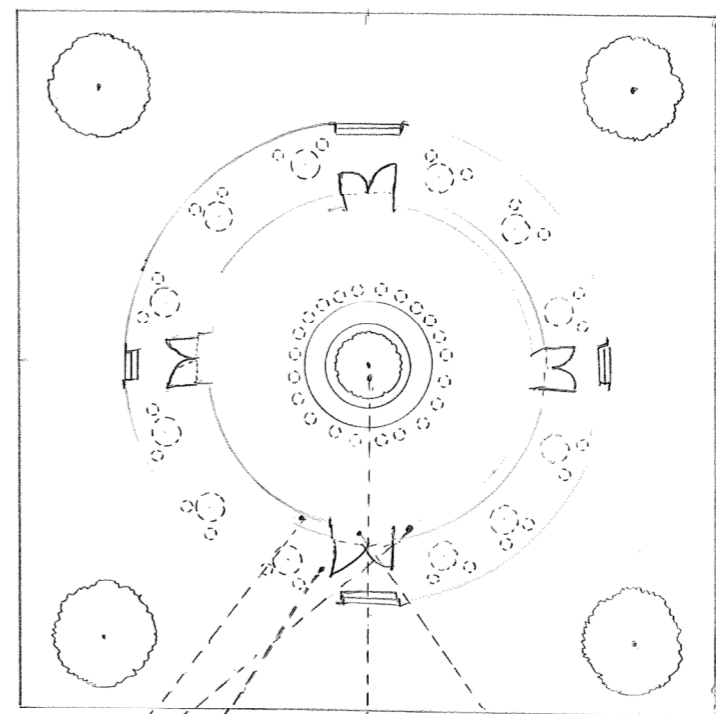
2. 開口部を多くつくる

・開口部を多くすることによって、換気をしやすくします。図のように4つの扉を設置したり、天井や壁に開口部を設置することによって多くの光を採り入れる事ができると思います。

3. 館内に緑を取り入れる

中庭を設ける事で図書館に対するイメージを明るくし、来る目的のひとつが読書であると思います。今の時代は、コロナウイルスの影響で自粛をしなければならぬ方が多くなりました。この先何から影響で暗くなった気持ちや回復できる場所があると尚良い。

図



本棚

中庭

4ヶ所の出入口

ウッドデッキ

…図書館内から持ち出した本ではなく、自分が買った本を読めるスペースを作る。

解決策の2個目である「誰でも入りやすい空間を作る」にはウッドデッキを設置し、図書館の本を読むためだけに来るのではなく、多目的な空間を作り、多くの人が出入りできるようにする。

新時代の県立図書館

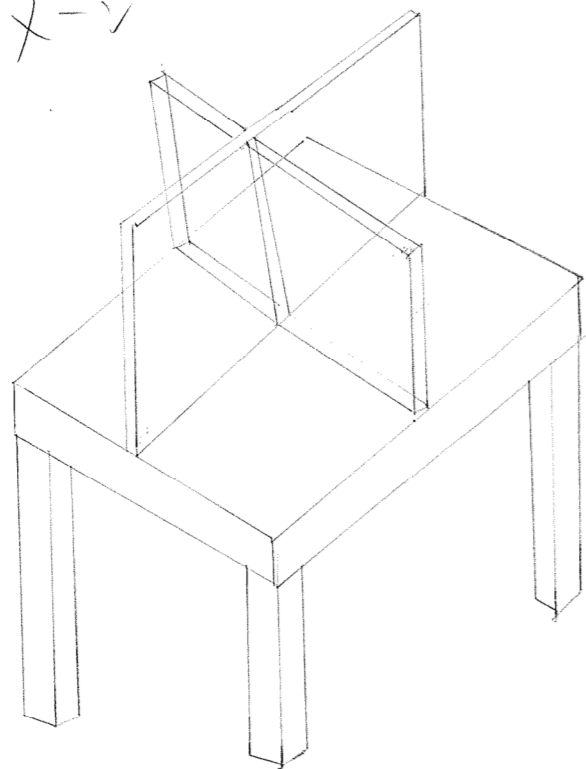
。新型コロナウイルスへの対応策

- ・ 館内マスク着用の義務化
- ・ 館内各所に消毒用アルコールの設置
- ・ 出入口に非接触型体温計の設置

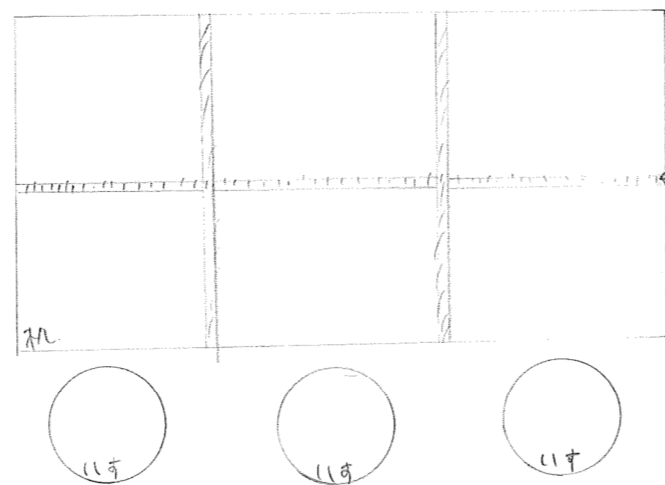
コロナウイルスが収束した後も
ひき読み・アルコール消毒・マスク着用の
義務化が必須だと考えられる。

。新型コロナウイルス収束後の対応策

イメージ



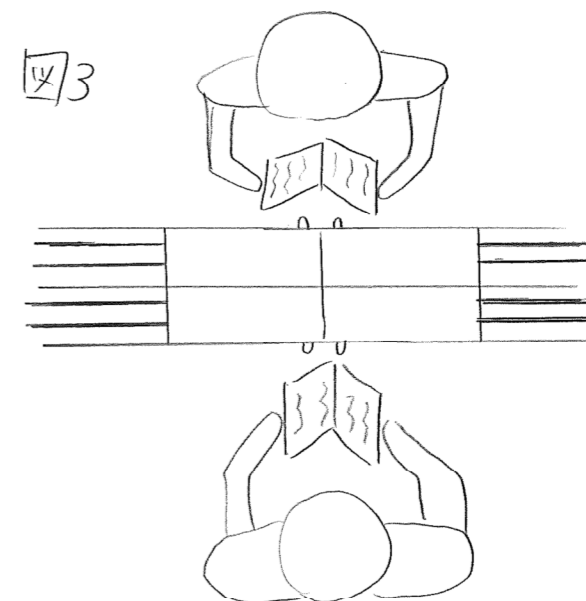
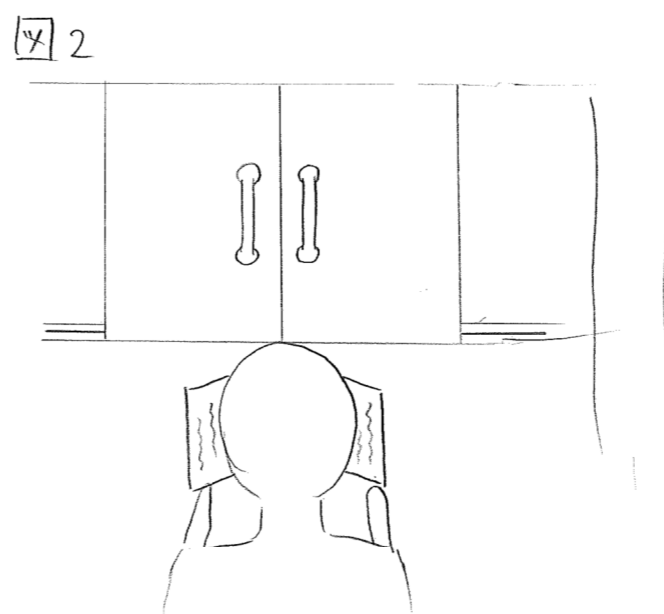
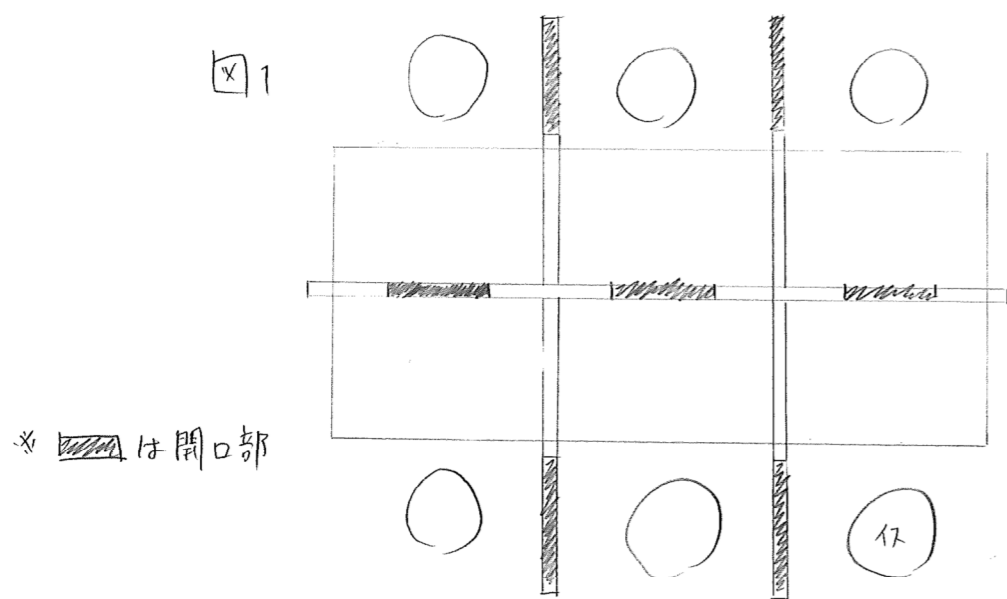
本を読むスペースに再発防止のため飛沫感染防止用ツールを並べる



このようにテーブルを1x1スペースで区切るように
ツールを設置する。

新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルスが流行ってきているので、図書館や公共の場などで使えるコロナ対策を考えた。

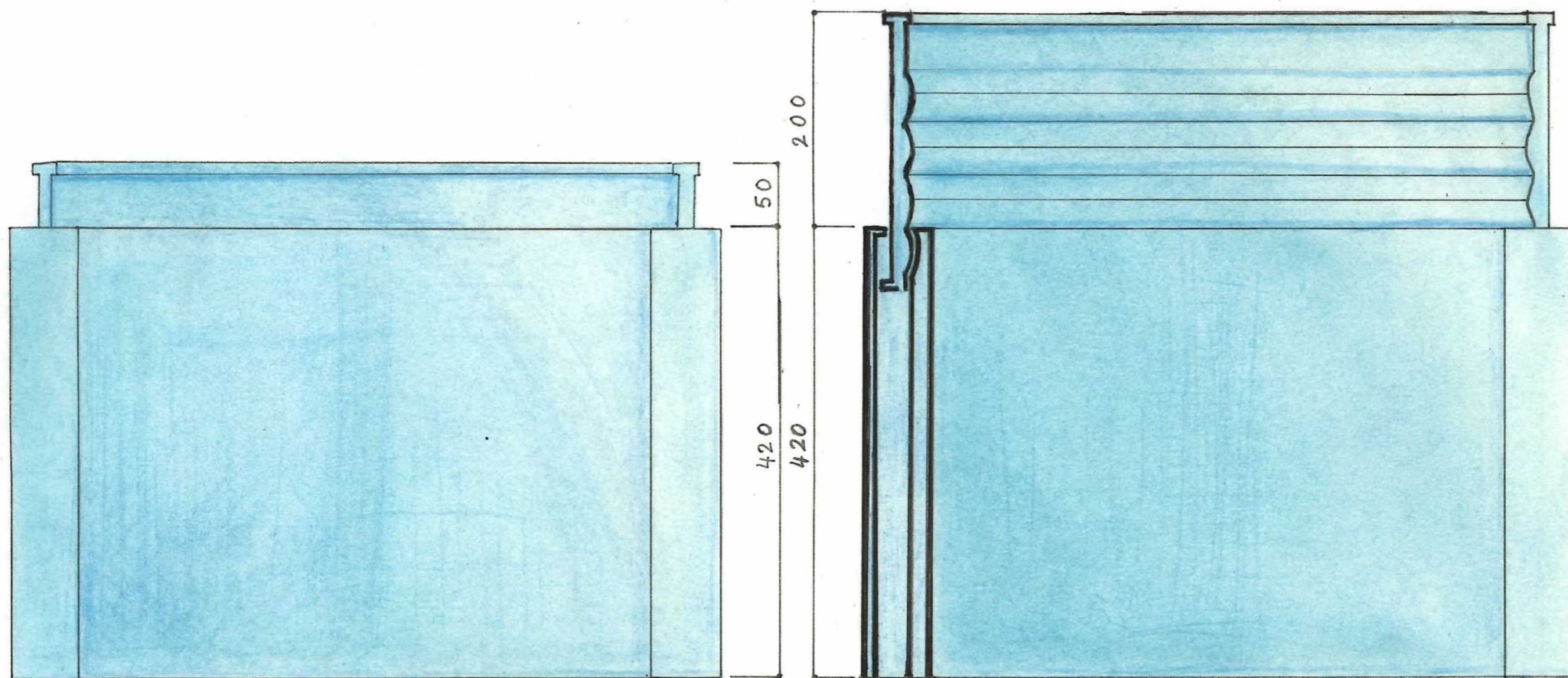
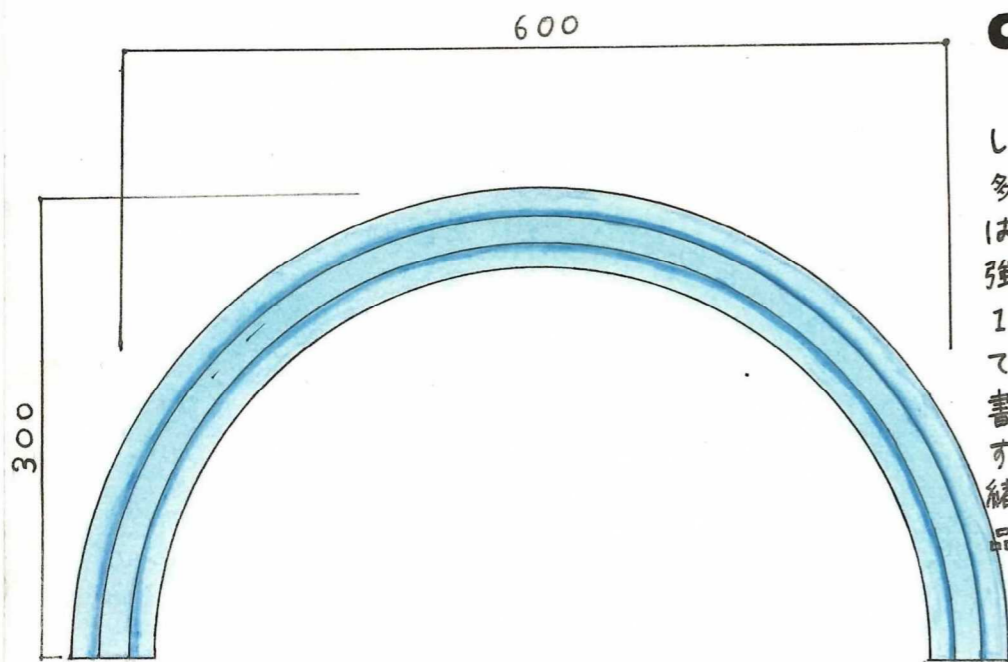


図書館や公共の場でのコロナ対策ではバリケードを人と人との間に設けることが多かった。このバリケードはとうめいのプラスチックなので、友人などと訪れた際には友人の顔を見ながらコロナ対策をすることができた。しかし、個人で訪れた場合、他の人の顔を見ながらでは気まづいし、席もとれないから効率が悪いんじゃないかと思ったので、図2のように必要に応じて開け閉めできる開口部をつけようと思った。いままでのバリケードはとうめいで仲間と話ることができずが個人のプライベートで使うにはいまひとつだったが、必要な所に開口部を設けることで、個人のプライベートも周りのコミュニケーションもとれようとした。

Look Block

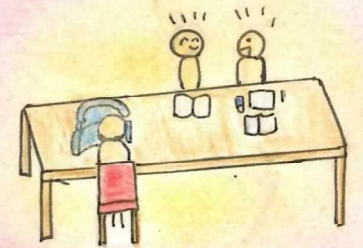
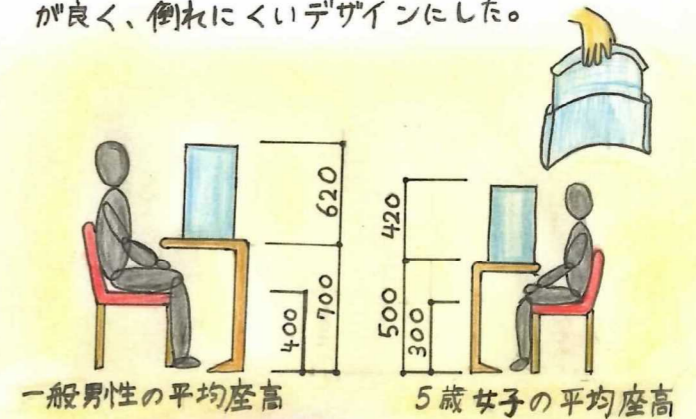
Concept

私の図書館のイメージは、1人で静かに読書や勉強をする場であった。しかし、新泉立中央図書館では、特徴に「利用者のニーズに応じた閲覧環境の中で、多少会話を許容、居心地の良い空間」となっている。私は、利用者のニーズとは何かを考えた。そして、3つ挙げた。「静かに読書ができること」「静かに勉強ができること」「友達と一緒に読書や勉強ができること」であった。そこで、1人で読書や勉強をする時と、友達と一緒に読書や勉強をする時の違いについて考えた。それは、視線ではないかと考えた。1人の時は、視線を感じずに読書や勉強をし、友達と一緒に読書や勉強をする時は、視線を感じながら少し楽しく読書や勉強をすることであると考えた。そのために、大きな閲覧室を1人の空間と友達と一緒にになれる空間とを気軽に、そして自由に間仕切れるようにするためにこの作品を提案する。

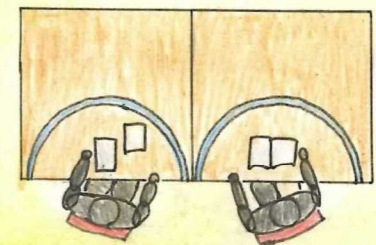


Overview

机から最小47cm、最大62cm高さがあり、一般男性の平均座高と5歳女子の平均座高を考慮し、高さを調整できるようになっている。1人の空間や友達と2人の空間が必要な人が自由に持ち運びできるように素材を軽くて丈夫なプラスチックとした。また、形を半円にすることでバランスが良く、倒れにくいデザインにした。

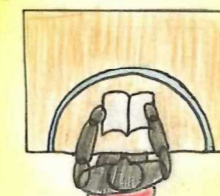


1人と2人を合わせた空間



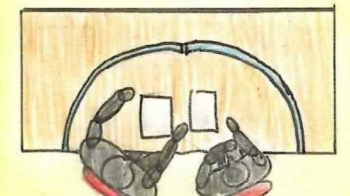
視線を感じたり、したいときのレイアウト

1人の空間



視線を感じないようにしたいときのレイアウト

2人の空間

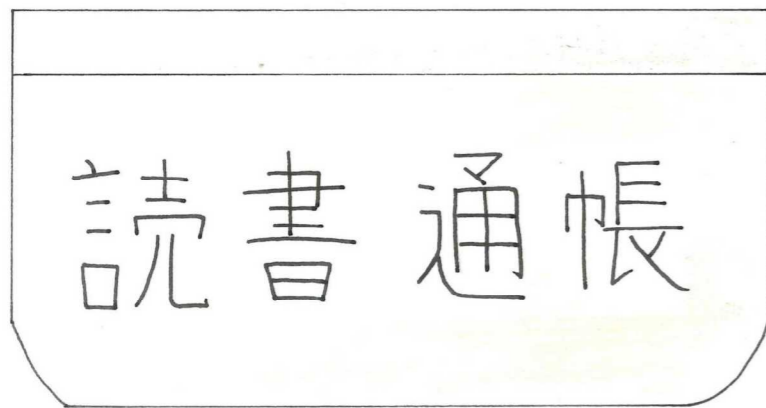


視線を感じながら友達と楽しくしたいときのレイアウト

貯める図書館

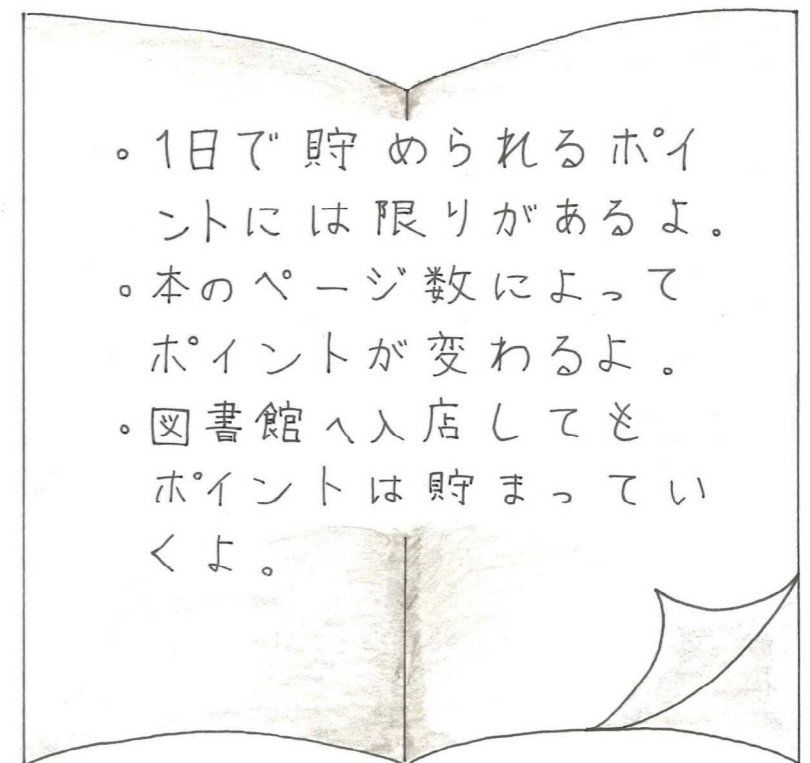
○コンセプト

図書館それは文化や知識がたまった場だ。誰しもが小さな頃絵本を貸りに通っていたであろう。しかし歳を重ねるにつれ図書館へ行くことは無くなってきていると思う。日常では欠かせない買物と図書館を掛け合わせ 本を借りることで買物での割引きポイントを購入することができるようにし 小さな頃の様に図書館へ通う楽しさに気づいてほしいと考えた。



・本を読んだ履歴は読書通帳に記録されていきポイントが加算される。

日付	名前	P
10 / 02	生物 絵本	10
10 / 20	旬の野菜	13
11 / 03	冬の虫図鑑	20
/		
/		
/		
/		
/		

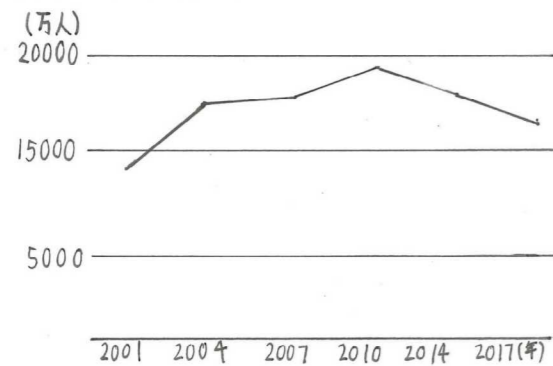


本が動く図書館

コンセプト

近年図書館の利用者数が減少している。
その原因の一つとして、図書館へ行くても、本がどこへ置かれているのか分かりづらいという点があげられるのではないかと考えた。
そこで、本が自動で動く図書館を提案する。
この図書館は映画「ハリポッター」シリーズにでてくる図書室を連想させるだろう。

図書館の利用者数



日本十進分類法

(例) 太陽系
全分類を0から9までの10の分類に分ける。

0	総記
1	哲学
2	歴史
3	社会科学
4	自然科学
5	技術
6	産業
7	芸術
8	言語
9	文学

次に各類をさらに10の分類に分ける。

40	自然科学
41	数学
42	物理学
43	化学
44	天文・宇宙
45	地球・地学
46	生物
47	植物
48	動物
49	医学・薬学

440	天文学・宇宙科学
441	理論天文学
442	実地天文学
443	恒星
444	太陽
445	惑星・衛星
446	月
447	彗星・流星
448	地球・天文地理学
449	明法・暦学



この本は太陽について書かれていて、分類は「444」となる。
「よん・よん・よん」と読む。

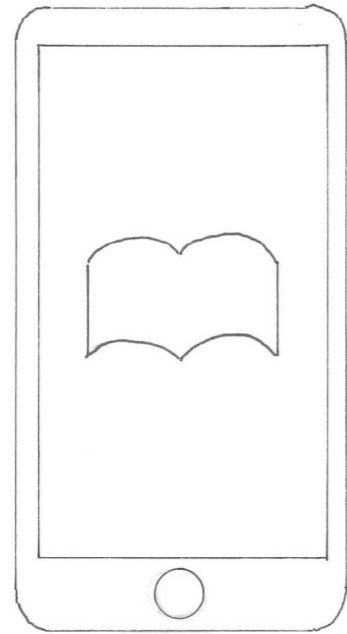
さらに10の分類に分けられる。



電子図書館

・コンセプト

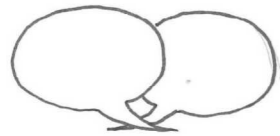
図書館は、本を借りる場所、勉強をする場所、人々の憩いの場所として、姿を変えず、長年、地域に寄り添ってきた。しかし近年、そんな図書館の利用者が減少しつつある。そこで、現代の技術に合わせ、電子という形に姿を変えることで、近代社会に合った新しい図書館を考えた。



アプリを開発。
アプリを通してデータで本の貸し出し
を行う。



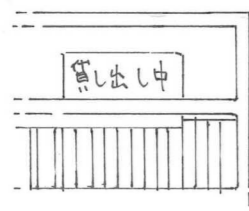
本の保管や貸し出しに加え
書籍の電子化を図書館で
行う。



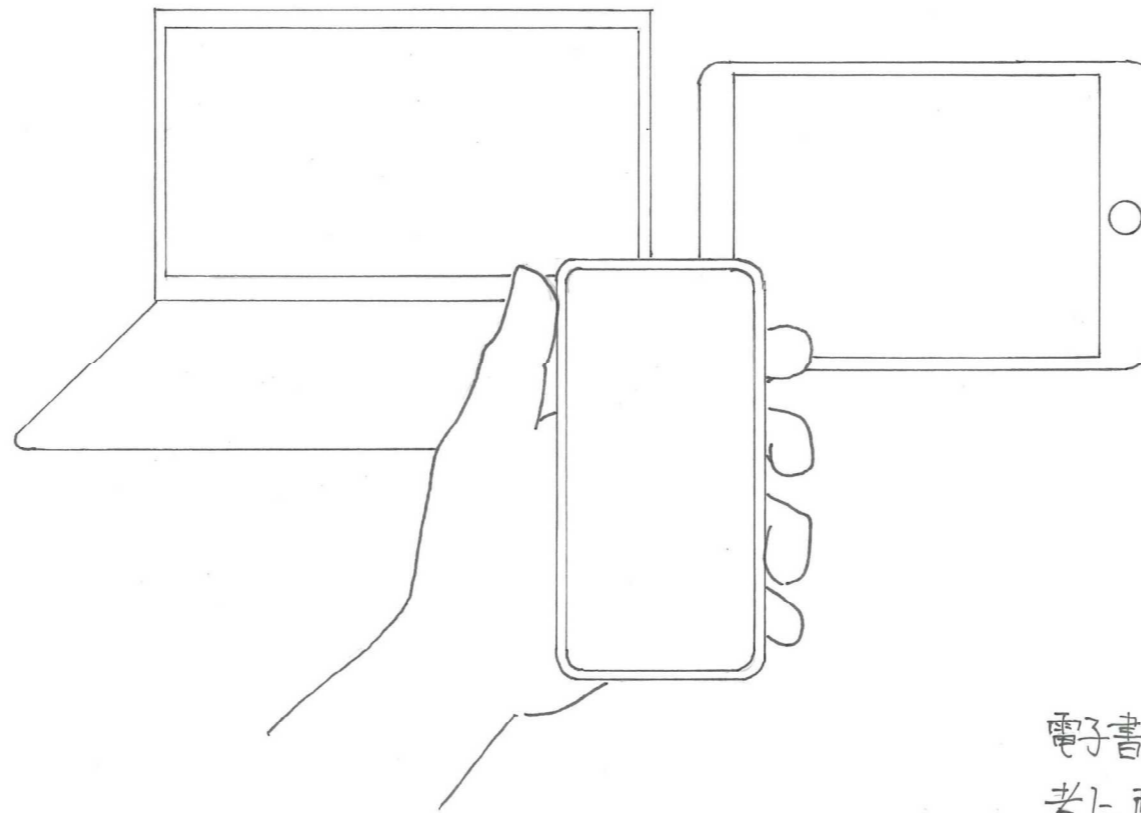
レビュー機能で
意見交換。



図書館に行かなく
ても自動で返却。



データでの貸し出しのため
在庫の心配なし!

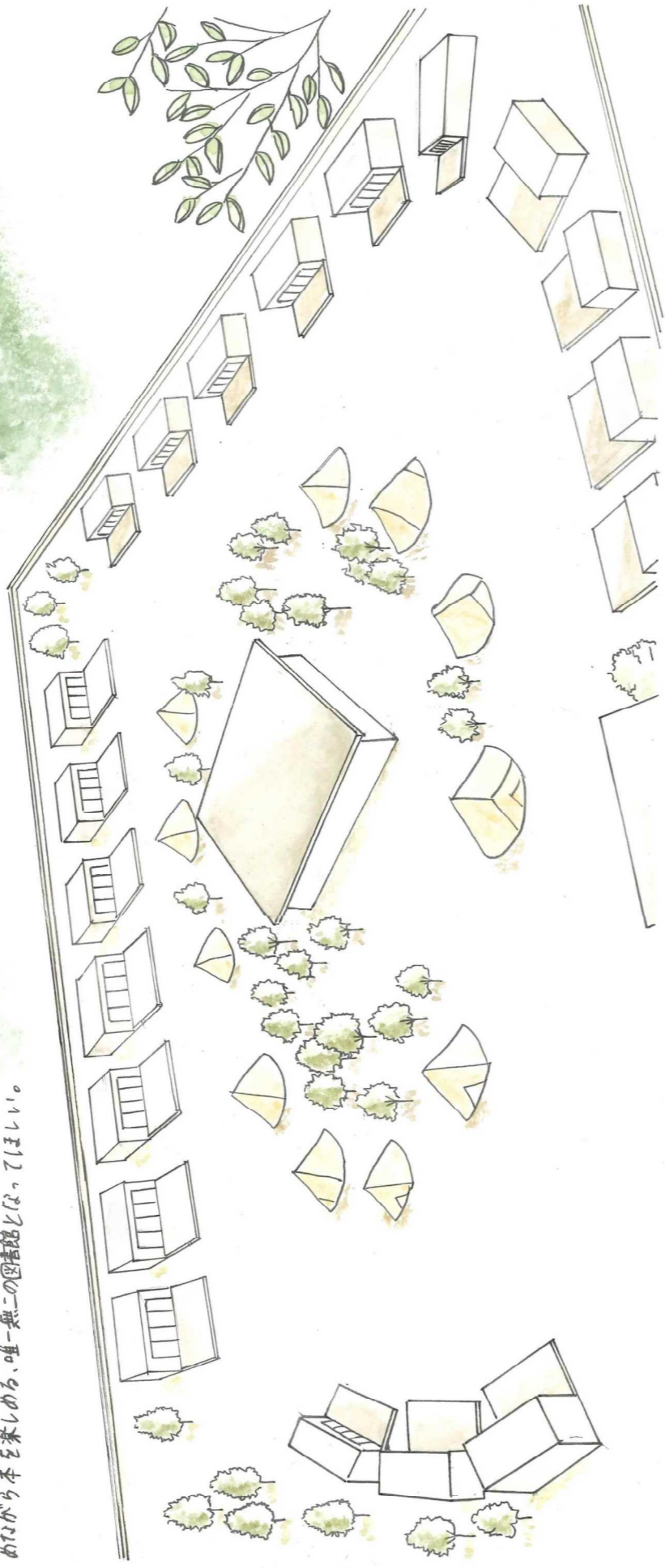


電子書籍はアプリ利用
者に配信され、どこ
でも書籍の貸し出しが
行える。

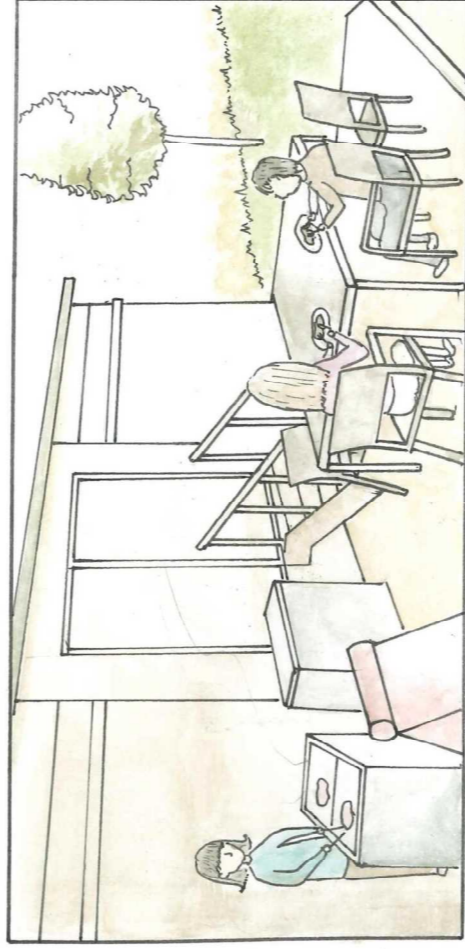


自然を楽しむ図書館

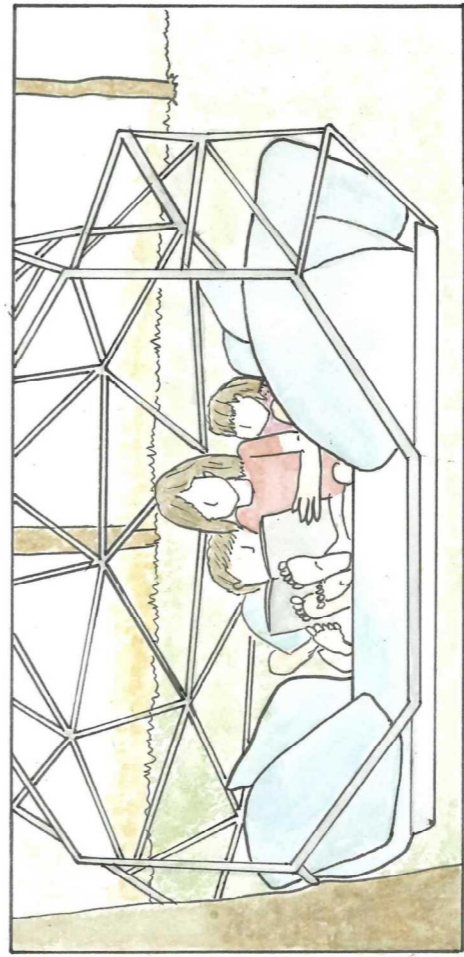
自然を楽しむながら、グランピングができる図書館を提案する。
 ここではグランピングをしながら、コンテナハウスとして宿泊もできるので、いつでも好きな時に好きな本を読むことができる。自然に触れることで、よりリラックスしながら本の世界に入り込めるだろう。静岡県のレストランにある富士山を眺めながら本を楽しむ、唯一無二の図書館を目指してほしい。



□ グランピングをする様子

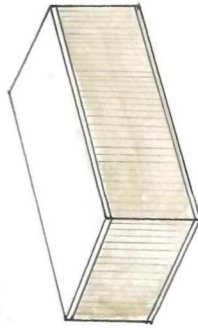


□ 読書をする様子

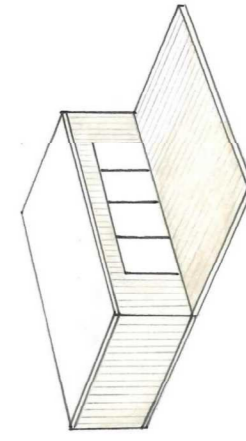


□ コンテナについて

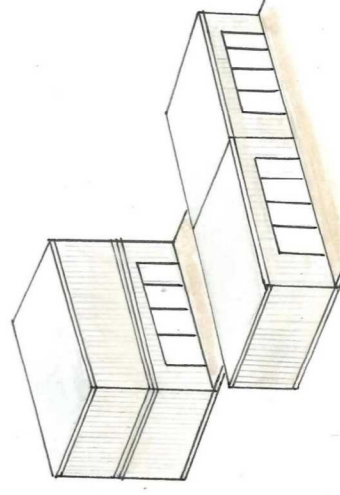
コンテナ



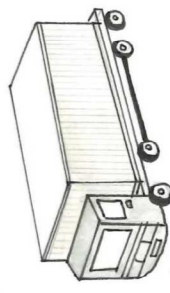
コンテナハウスの大きさは、実際のコンテナと同じ2074×6m×3m×2.5mにする。



スタンダードなコンテナハウス



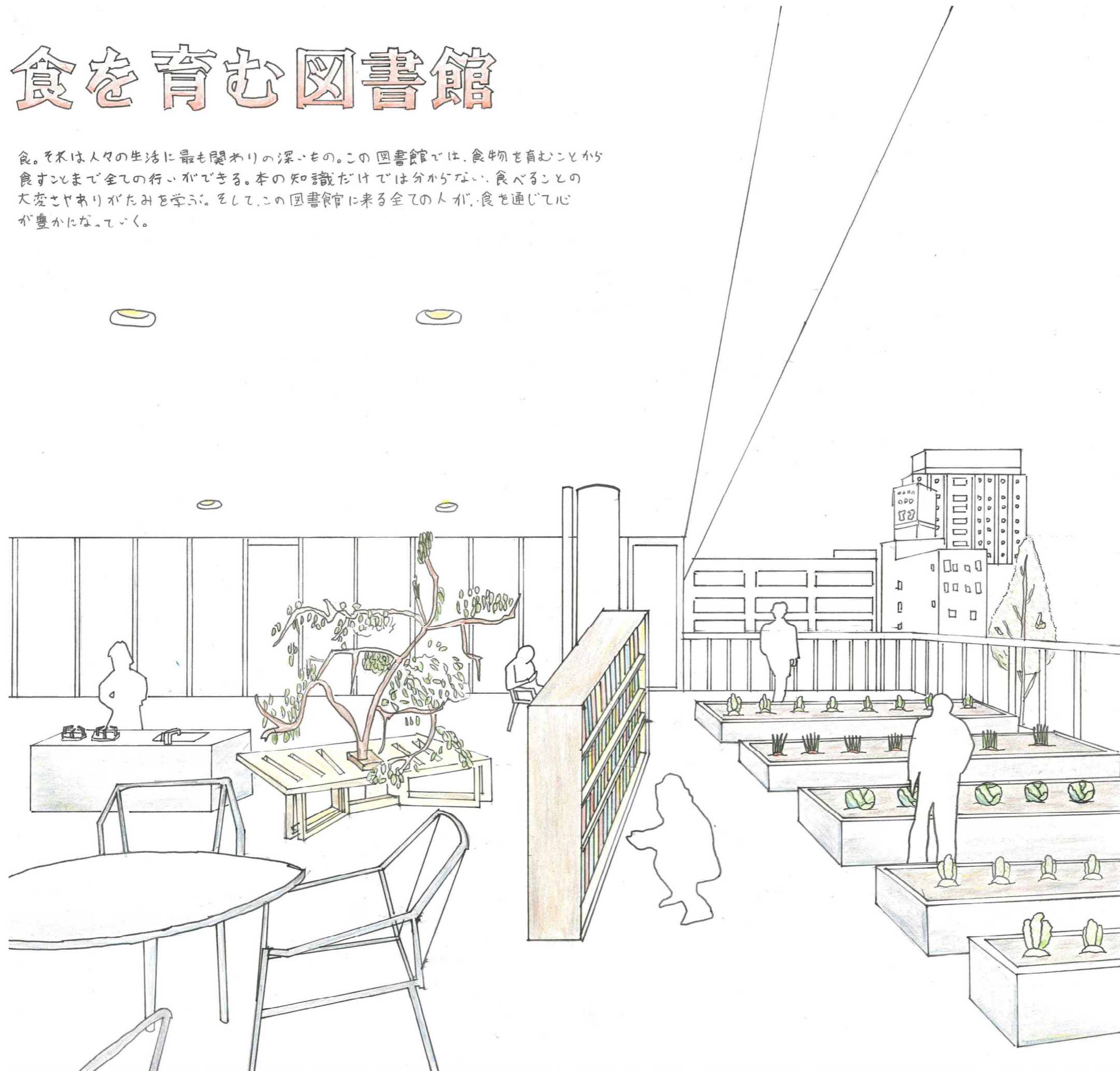
様子を合わせたり、集げたりして、宿泊客の人数に合わせて変更できる。



トラックなどの大型車で自由に移動させることができる。

食を育む図書館

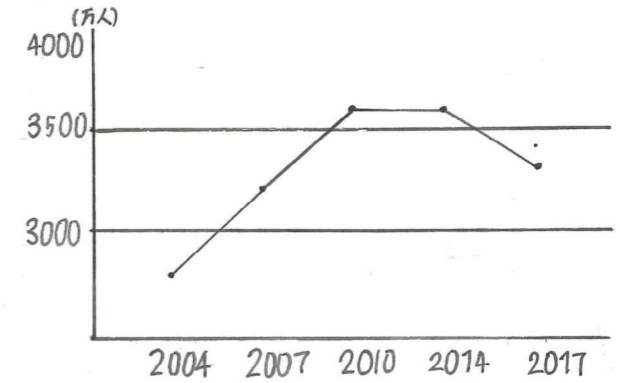
食。それは人々の生活に最も関与の深いもの。この図書館では、食物を育むことから食すことまで全ての行いができる。本の知識だけでは分からない、食べることの大切さやありがたみを学ぶ。そして、この図書館に来る全ての人材、食を通じて心が豊かになっていく。



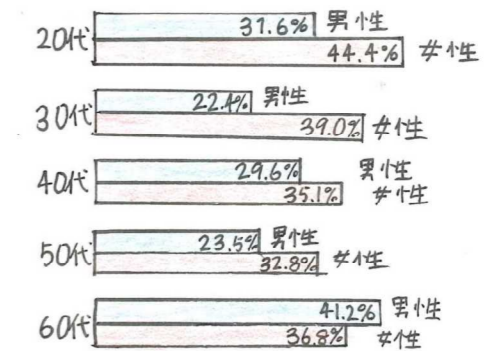
図書館の現状

デジタル化による「図書館不要論」。インターネットの普及により、図書館に行かなくても本を読むことができる。よって図書館の利用者数が減っている。

図書館の利用者数



1年以内に図書館を利用したことがある



食×図書館

誰でも関わる「食」の様々な分野を取り入れた食の図書館にする。

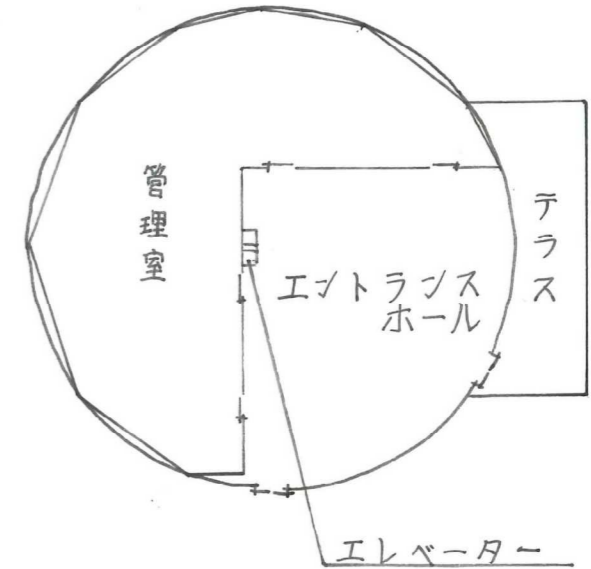
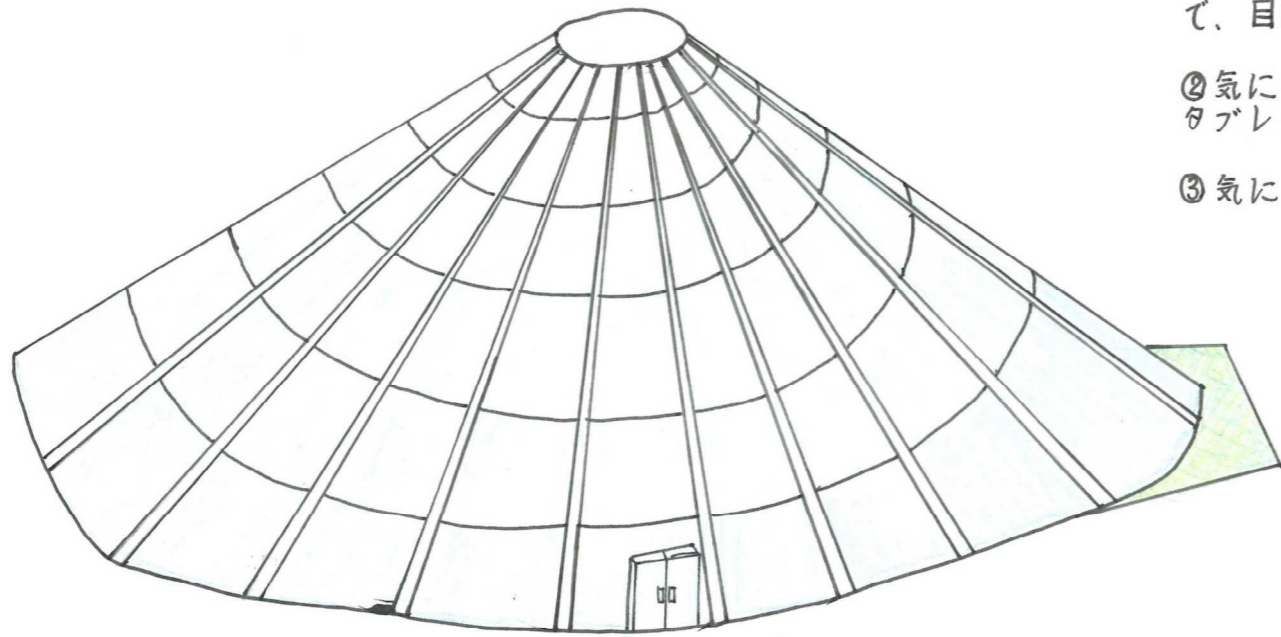
<p>「育む」</p> <p>図書館内にある畑で食物を育てる。</p>	<p>「作る」</p> <p>本棚の料理本を見、試し作りをする。</p>
<p>「食べる」</p> <p>みんなで作った料理を食べ、感想を言い合う。</p>	<p>「共有する」</p> <p>レシビヤコリを本に残し、次の利用者に共有する。</p>

みらい図書館

～情報機器を用いて～

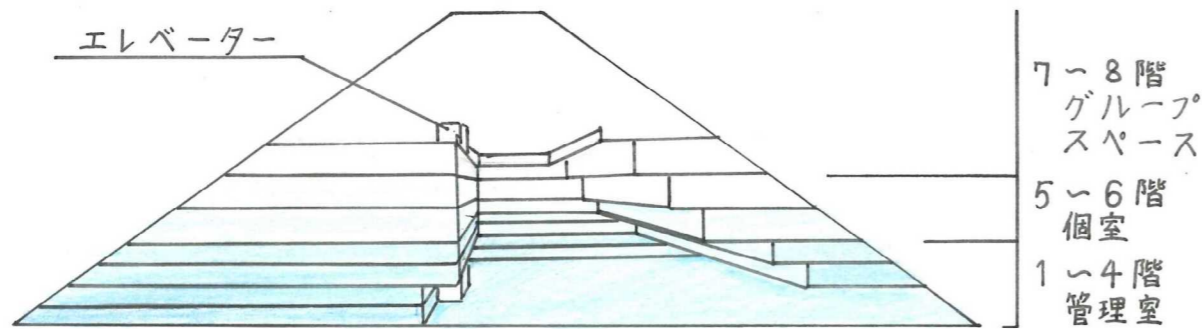
仕組

- ①お客様が好きな席にすわり、各席にあるタブレットで、目的の本を探してもらおう。
- ②気になる本が見つかったら、その本を選択し、タブレットで少し読んでもらう。
- ③気に入ったら、借りるボタンを押す。
- ④その後、その席に本が届く。
- ⑤返却時は、紫外線消毒器で消毒してから返却する。



提案

これから22世紀にわたり、静岡県民に愛され、全国の方々にもこれが、静岡の図書館と、言われるようなインパクトのあるデザインを提案する。また、ウィズコロナ、アフターコロナのどちらの時代にも対応して、快適に使用できるように、情報機器を用いる。



ポイント

- ・色々なタイプの席を用意する (個室, テラス席, ソファ席など)
- ↓
- ・自分の好きな席、環境で読書を楽しめる。
- ・密を防ぐ事ができる。

- ・タブレットを用いる
- ↓
- ・情報化がさらに進むと考えられる22世紀では、情報機器を用いた方が便利と考えるから。

タブレットで本を探す、借りる

- ↓
- ・その場ですべてが完結し、移動をほとんどする事がないため、人との接触を減らせる。
- ・高齢化がさらに進むと考えられる22世紀では、高齢者への配慮が必要だと考えられるから。
- (本を探す、取る、戻す、席をすわる、立つなど、足腰への負担を減らす。)

外観のデザインを富士山をイメージ

- ↓
- ・今までにないデザインで、インパクトを与える。
- ・静岡県のシンボル的な存在で、静岡県民がしたしめやすい。

・全面がラス張り

- ↓
- ・開放感を与え、リラックスして、読書ができる。
- ・外の眺めを楽しみながら、読書ができる。